

准教授

高木 和子

TAKAGI, Kazuko

## 1. 略歴

- 1988年3月 東京大学文学部国文学専修課程卒業  
1988年4月 東京大学大学院人文科学研究科国語国文学修士課程入学  
1991年3月 同 修了  
1991年4月 東京大学大学院人文科学研究科国語国文学博士課程進学  
1996年3月 東京大学大学院人文社会系研究科日本文化研究専攻日本語日本文学  
専門分野博士課程単位取得退学  
1996年4月 東京大学大学院人文社会系研究科日本文化研究専攻日本語日本文学  
専門分野研究生（～1997年3月）  
1998年4月 博士（文学）学位取得（東京大学）  
1998年4月 関西学院大学文学部専任講師  
2002年4月 関西学院大学文学部助教授（2007年4月より准教授）  
2008年4月 関西学院大学文学部教授  
2013年4月 東京大学大学院人文社会系研究科准教授

## 2. 主な研究活動

### a 専門分野

平安仮名文学、源氏物語

### b 研究課題

源氏物語は、平安前期に成立した長編物語・歌物語・和歌の発想を基盤とし、日記文学・漢詩文・史実等を貪婪に吸収して成立したと思われる。そこに到りつくまでの文学史的な動態、及び、源氏物語それ自体の構造や表現の分析を主な研究課題としており、初期の成果は『源氏物語の思考』（風間書房、2002年、第五回紫式部学術賞受賞）にまとめた。また平安時代の人々の思考や発想の形式にも関心を寄せており、和歌の贈答の分析を通じた意思伝達の呼吸などについて、『女から詠む歌 源氏物語の贈答歌』（青簡舎、2008年）に提案した。そのほか、研究成果を一般の人々に分かりやすく伝える仕事として、瀬戸内寂聴訳源氏物語の注釈等の執筆のほか『男読み 源氏物語』（朝日新書、2008年）、『コレクション日本歌人選 和泉式部』（笠間書院、2011年）、『平安文学でわかる恋の法則』（ちくまプリマー新書、2011年）等の一般書も手掛けている。

### c 主要業績

#### (1) 論文

高木和子、「源氏物語における儀礼の歌」、小嶋菜温子・長谷川範彰編『源氏物語と儀礼』、武蔵野書院、635-650頁、2012年10月

高木和子、「源氏物語における類聚性」、『東京大学文学部次世代人文科学開発センター研究紀要』、第27号、57-68頁、2014年3月

#### (2) 解説

高木和子、「原文を習ふ」、『週刊 絵巻で楽しむ源氏物語』、朝日新聞出版、毎週刊行全60巻のうちの偶数号、各2頁、2011年11月～2013年2月

#### (3) 学会発表

国際、「源氏物語の世界—光源氏の好色とは何か—」2013年11月25日、於ソウル大学

#### (4) その他

コラム 『遊想』 『神戸新聞』夕刊、2013年1月～4月、全7回

## 3. 主な社会活動

### (1) 他機関での講義等

関西学院大学非常勤講師、2013年4月～2014年3月

連続講座、兵庫県芸術文化協会、「源氏物語に親しむ」、2009年4月～2013年2月

### (2) 学会

中古文学会委員、2007年6月～

東京大学国語国文学会評議員、2013年4月～